



日本生まれのノジコ、フィリピンでの暮らし ～越冬地における個体数、生息環境～



出口翔大(福井市自然史博物館)

背景

近年、渡り性のホオジロ類が世界的に激減しており (Kamp et al. 2015; Edenius et al. 2017)、繁殖地・渡りの中継地・越冬地における包括的な保全が課題となっています。

ノジコ *Emberiza sulphurata* も生息環境の消失などにより国際的に絶滅が心配されている渡り性のホオジロ類です

(IUCN 2016)。世界中で日本のみで繁殖し、繁殖地における生息密度や生息環境などは、申請者たちにより明らかにされつつあります (Deguchi et al. 2017)。しかし、越冬に関する情報は完全に不足しています。越冬地とされている地域は中国南部、台湾、フィリピンの北部など複数ありますが (Byers et al. 2013; 図1)、完全には解明されていません (IUCN 2016)。ノジコの保全には、越冬地の保全・管理が欠かせません。そのためにも越冬地における基礎生態の解明は必須です (IUCN 2016)。

♂



- ・スズメ目ホオジロ科
- ・体長14cm
- ・推定個体数:
3,500~15,000
- ・IUCNレッドリスト
危急種 (VU)

胸や喉の黄色みが美しく、英名は Japanese Yellow Bunting とも



図1. ノジコの繁殖地および越冬地とされている地域. (Byers et al. 2013をもとに描く)

目的

ノジコの越冬地における基礎生態の解明

本研究は、その足掛けとして以下2点の課題に取り組みます。

- ① 越冬個体数の把握
- ② 越冬環境の特定

方法



調査地

ノジコの主要な越冬地と考えられている
フィリピンルソン島北部（イロコス・ノルテ州など）

期間

2020年3、4月

方法

野外にてノジコの発見に努める。ノジコが確認された場合、本研究の2点の課題解決に向けて以下の項目を記録する。

① 越冬個体数の把握

—雄雌それぞれの個体数

② 越冬環境の特定

—緯度・経度

—標高

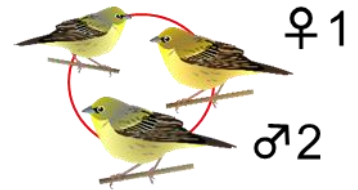
—景観

（山地、農地、河川、集落の4項目）

—植生タイプ

（草地、やぶ、林の3項目）

Abundance



※調査は現地事情に詳しい猛禽類観測ネットワークフィリピン（Raptor Watch Network Philippines）にガイドを依頼して行う。

成果のフィードバック

調査の継続により、一般向けの普及活動（講演や展示、文章の執筆など）や学会発表、学術雑誌への論文発表を行います。

支援金の使途

主に現地調査を行うための旅費交通費に充てさせていただきます。
皆さまの温かいご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

